

議長	副議長		
			 

総務建設常任委員会視察研修報告書

令和7年2月18日

大口町議会 議長 江口 昌史 様

大口町議会 総務建設常任委員会

委員長 藤田 敏英



総務建設常任委員会視察研修の結果（状況）は、別記（別紙）のとおりです。

記

- 1、実施日時 令和7年1月14日（火）10時00分～15時00分
- 2、視察目的 本町において最も発生が危惧される災害である「水害」について、過去の被災経験に基づいた防災対策を講じている自治体に学ぶ。
- 3、視察場所 豊田市防災学習センター
岡崎市
- 4、視察者

総務建設常任委員会	委員長	藤田 敏英
同	副委員長	宮川 基英
同	委員	山崎 卓美
同	委員	松本 佳子
同	委員	江幡満世志
同	委員	丹羽 勉
同	委員	鈴木 和江
同	委員	江口 昌史
町民安全課	課長	岩崎 義宏
同	主査	宮田 勇一

5、視察内容

・豊田市防災学習センター

防災体験館では、暴風・地震・初期消火・煙避難等を体験できる施設があり、委員がそれぞれ交代しながら体験学習を行った。

また、係の方から、家具の転倒防止や食器類の落下防止対策の必要性に関する話を聞き、今一度災害を想定して確認、対策をして欲しいとの説明があった。

・岡崎市

「豪雨災害後の防災対策について」

平成20年8月末豪雨災害の教訓から得た対策事例について説明を受けた。

※上記災害は2008年8月28日～29日の真夜中に発生。

雨量（100mm/時間以上）、夜明けには洪水による住宅浸水。

後に集計された被災状況は、家屋の全壊4棟、半壊1棟。

床上浸水890棟、床下浸水1,610棟。死者2名。

対策事例

この被災経験を機に、県及び市による大規模な洪水対策事業を実施。

・床上浸水対策特別緊急事業

伊賀川、占部川他3河川（11.6キロ）、河川整備

・下水道事業による内水対策

雨水ポンプ場7か所、新設及び増強

※これらの整備（対策）により、2016年9月発生の台風16号（雨量62.5mm/時間）においては床上、床下浸水被害は無く、整備効果が得られたと評価。

・総合雨水対策計画（平成28年7月）の策定

基本理念：『大雨から“いのち”と“くらし”を守る』

- | | |
|------------|---------------|
| ・市民ができること | ・避難力の強化 |
| | ・水害防止対策 |
| | ・積極的な情報収集 |
| ・事業者ができること | ・雨水貯留浸透施設の設置 |
| | ・地区防災計画策定への支援 |

- ・市ができること
- ・ポンプ場の整備・雨水幹線の整備
- ・河川の整備、水害リスクの見える化
- ・情報伝達体制の強化 他

・事前質問に対する回答

「この災害を機に最も重要視された災害対策は」

この災害により、内水氾濫の発生しやすい地区が明確になり、これらの地区を浸水常襲地区とし対策を講じている。

「市民への防災意識の向上・啓発は」

地元で組織されている自主防災組織への説明会・出前講座・地域総合防災訓練を実施している。

「地域の自主防災会を組織されているのは、住民による有志か」

概ね町内会（自主防災組織）の活動としてお願いをしている。

「気象庁（名古屋地方気象台）が大雨警報発令後、18分後に災害本部が設置されたとのことだが、なぜそれほど早く立ち上げることが出来たか」

警報発令の見込みや災害発生の懸念がある場合には、防災部局職員による情報収集体制を取っており、迅速な災害対策本部の設置を行える体制を構築している。

「避難命令を夜間に発令する場合、その伝達方法は。また議員はどのような伝達、対応を取っているか」

ラジオ、ケーブルテレビ、HPに加え、登録者には防災緊急メールの一斉送信、X, LINE, Yahoo!等で避難情報を発信、議員へはLINE、グループウェアを利用し、必要があれば対策会議を開催している。

「災害発生時に備え、民間企業との連携はどのようにされているか」

主に避難スペースや災害救援物資の提供についての災害協定を締結している。

委員長所感

・ 豊田市防災学習センター

煙避難では、多数階のビル火災で煙が迫りくる中では何も見えず、手探りで壁伝いにドアを見つけ脱出するという体験を通して、避難誘導灯の重要性を確認できた。

・ 岡崎市

岡崎市では、大災害から学んだことを活かし、河川の改修や雨水ポンプ場等の整備が進められた結果、ハード面的には整えられているように思えた。

ソフト面においては、「本当の防災とは命を守る事」という考えの下、行政による「公助」に加え、いかにして自分の命を守ることが出来るのかを個々が考えると共に、お隣さんを気遣い、互いに声掛けをしながら確認し合うという「自助」「共助」の役割が重要であると学ぶことができた。

これらは岡崎市が、かつて被災した大災害の経験から培われたものであり、共感できるところや学ぶべき点が多くあった。

また、被災地域は、市の中央を流れる伊賀川と占部川の周辺に密集する集落で、大口町に極めて類似した地形であり、非常に参考になった。

今回の視察により学んだことを、今後の本町の防災対策に役立てていきたい。

参考資料

- ・ 豊田市防災学習センター 豊田市HP

<https://www.city.toyota.aichi.jp/>

- ・ 岡崎市総合雨水対策計画 岡崎市HP

<https://www.city.okazaki.lg.jp/>

岡崎市水害対応ガイドブック

<https://okazaki-bousai-portal.transmod.jp/sonae/150.html>

以上